

Zからの“秘められた”メッセージ〔後編〕 —トランプ大統領の登場による不確実な時代の到来と国際関係の行方—

旭 英 昭

目 次

(前編：2017年10月号に掲載〔53－65頁〕)

1. はじめに — ゼーリックの足跡をたどる
2. トランプ大統領の誕生と不確実な時代の到来
3. “リベラルな国際秩序”の後に来るもの
— グランド・ゼロの世界か、無秩序か (?)

(後編)

4. アジアの未来：20世紀のジョン・ヘイと21世紀のゼーリックの夢
5. 経済と安全保障 — 米国外交の伝統とその変遷
6. 日本への期待、その役割と課題

米国外交界のなかで“経済の分かる”稀有な存在として知られているゼーリックは、建国以来「通商の自由」を軸にして世界に展開した米国外交の伝統に精通する。冷戦期に生まれた軍事偏重の国家安全保障観に対して、今日いち早く、“経済と安全保障”の重要性に着目し、“リベラルな国際秩序”の維持、発展のために米国が引き続き果たすべき役割の大きさを強調する。そして、中国を含む、アジアの安定と繁栄を構想するゼーリックは、TPPの持つ発展性とその戦略性を説き、また、日本に対して期待する。

4. アジアの未来：20世紀のジョン・ヘイと21世紀のゼーリックの夢

(アジア外交をめぐる五つの緊張関係)

米国の東アジア、日本研究者のなかでわが国でも知名度が高いマイケル・グリーンは、“米国のアジア外交にグランドストラテジーはあるのか(?)”との問題設定をして大部な*By More than*

Providence (注1) を書き上げる。そして、その解を求めて、同書のなかで、米国建国時の1783年、つまり、トマス・ジェファソンやジョン・クインシー・アダムスの時代にまで遡って、(東)アジア外交をめぐる戦略的思想の葛藤と変遷を読み解く。その作業を進める上で、グリーンが特に着目したのが、米国外交のなかで繰り返されたアジア政策をめぐる五つの“緊張関係 (frictions)”で



旭 英昭 (あさひ ひであき)

日本国際問題研究所客員研究員。前東京大学大学院総合文化研究科教授。1970年、東京大学法学部卒業。71年、外務省入省の後、内閣審議官、初代在東ティモール大使を経て、2006年退官。72－74年まで米国ペンシルヴァニア州スワースモア大学に留学。著作に『平和構築論を再構築する 増補改訂』(日本評論社、2015) の他、寄稿論文に、“State, Society, and Social Capital,” *Journal of Human Security Studies*, Autumn 2016; “A Successful Model or an Uneasy Future for Peacebuilding,” *Asian Journal of Peacebuilding*, May 2017等。